

## 平成10・11年度における農学部図書分館の利用実態報告

農学部図書・紀要編集委員会

農学情報係（信州大学附属図書館農学部分館）

**要約** 本学部図書分館では、平成8（1996）年度より週日は、17時から20時までの3時間開館時間延長を行っている。また、10（1998）年度より土曜日10時から16時までの開館を行うことにした。そのため、平成8、9年度に引き続き、10、11年度においては、同じく延長時間内の利用状況に加え、土曜開館時間中、さらに両年度の前期、後期の通常授業期（通常期）および試験・補講期（試験期）の各1週間（月～金）を選び開館全時間を通じての利用状況を調査した。調査は、延長時間内については前回の調査と同じく17：30～19：30までの間30分おきに5回、週日の9：00～5：00までは、9時より1時間おきに9回、また土曜日は10時半より1時間おきに6回、館内閲覧室・書庫およびロビー・印刷室にいる利用者の数を記録することで行った。さらに各調査日の調査時刻ごとの在館者数を集計し、これを当日の延べ利用者数として解析に用いた。

全日調査による1日平均延べ利用者数は、通常期で150～190、試験期で300名前後であり、これから実際の1日当たり利用者数は通常期で100～150名、試験期で200名強と推定された。1日当たりでみると、これら利用者のうち60～70%が閲覧室、30～40%がロビーに在室していたが、通常期午前中はロビーに在室者の割合が高い。通常期においては利用者の数は午前中は少なく、午後次第に増加して16：00ないし17：00にピークに達した後、延長時間内を通じて減少した。試験期でも利用者数が午前中から増加し始めること、ピーク到達が15：00～16：00であることを除けば同様の日内推移がみられた。また、開館延長時間内の利用者数は、通常期、試験期ともに、1日の利用者総数の約1/4と推量された。

平成10、11年度前・後期における延長時間内利用者数は、先の報告の8、9年度における利用者数よりかなり増加した。しかし、利用者数の各期間内推移、曜日の影響、延長時間内の在館者数推移等については、前報結果と大差はなかった。

土曜日における利用者数は週日昼間の1/3以下であったが日による違いが大きく、全般に前期、後期の前半は少なく試験期が近づくにつれ増加、試験期には100名内外、ないしそれ以上の数にまで達したものの、前半でも時に試験期に近い利用者数の日もあった。午前中の利用者は少なく、在館者数は午後次第に増加し、閉館前15：30に最大値になった例が多かった。開館時間の設定については、今後なお検討の余地があるかも知れない。土曜開館の場合、他に比べロビー利用者の割合が少なく全利用者数の20～30%にとどまった。

平成7年4月の本学附属図書館利用規程改訂による開館時間枠拡大に呼応し、本学部図書分館でも平成7年度の試行の後、8年度より平日の開館時間をそれまでの8：30～17：00から20：00までに延長、さらに土曜開館についても平成9年度の試行の後、10年度から10：00～16：00開館の本格的実施に踏み切った。この間、最初の時間延長試行の際にその効果を確かめるため始めた利用状況調査を、その後も図書館利用実態の貴重な資料となると考え、引き続き実施してきた。同調査により得られた結果は、先に平成8、9年度における開館時間延長時間帯の利用状況<sup>1)</sup>として本紀要35巻1号に報告したが、その

後平成10、11年度においては、先と同じ延長時間帯に加え、10年度より始まった土曜開館の時間中、さらに間欠的ではあるが以前からの開館時間帯である平日8：30～17：00の間の利用状況についても調査を実施したため、それらの結果をまとめて今回報告する。図書館の利用状況と言うと、通常、入館者数あるいは貸出図書数などについての年間を通じての総数ないし1日当たり平均数で言われることが多いが、これらの数字からは「年間でいつの時期の利用が最も多いか」、あるいは「1日のうち利用者が最も多い時間帯はいつか」などの利用者の動態まではわからない。図書館に対する開館時間枠拡大の要望は今後ますます強くなると思われ、本学部の場合も、ごく近い将来において、日曜・休日開館、さらに24

受理日 6月21日

採択日 9月22日

時間開館の問題を検討せざるを得なくなるのは間違いない。限られた予算、限られた要員の範囲でこれらの問題に対処する場合、利用者の動態に関するデータは、その検討を助ける良き資料になるに違いない。

なお、土曜開館日および週日開館延長日の全日にわたる利用調査は、いずれも平成9年度に既に試行的に行っており、その結果は当時の立案委員会に報告された。しかし、その内容は今回得たものと基本的に違いがないため、ここでは平成10、11年度の本格実施で得られた結果のみを報告する。

### 調査時期および調査方法

平成10年4月以降、本学部図書分館では、冬季休館日(12月28日～1月4日)、開学記念日(6月1日)、国民の祝日および休日を除いた日々のうち、授業開講期間および試験・補講期間は毎週月～金曜8:30～20:00、土曜10:00～16:00の開館、それ以外の期間では月～金曜8:30～17:00開館、土曜開館なし、を原則とするが、可能であれば授業・試験期間以外でも開館時間延長、土曜開館を行うよう努めることとしている。ただ、授業開講期ではあるが、11月上旬の土・日開催の落葉松祭に際しては美術展のためのロビー貸出のため前日(金)を17:00までの開館、当日土曜日の開館はなし、また1月上旬の大学入試センター入学試験に際しても保安上実施日に当たる土曜日の開館はなし、の措置を取ることとした。

こうした基準のもとに学年暦を検討した結果、平成10年度においては、4月13日から7月31日の間の16週(月～金)75日および9月28日から2月26日の間の20週92日、計36週167日を20:00までの開館日(以下、開館時間延長日と言う)とし、また土曜日については5月2日～7月25日の間の13回および10月3日～2月27日の間の16回、計29回を開館日とした。同様に、平成11年度においては、開館時間延長日は4月12日～8月6日の17週79日と9月27日～2月25日の21週94日、計38週173日、土曜開館は4月17日～8月13日の18回と10月9日～2月26日の17回、計35回行った。

開館時間延長日においては17:30～19:30の間、30分おきに5回、土曜開館日においては10:30～15:30の間、同じく30分おきに6回、係員(時間外要員・事務補)が館内を巡回し、各時点における在館利用者数を閲覧室(1、2階書庫を含む)、

ロビー(印刷室を含む)に分けて記録した。

これら記録に対する対照として平日常時開館時間(8:30～17:00)内における利用状況を調べるため、平成10年度においては5月11日～15日と12月7日～11日(前・後期通常授業期、以下通常期)および7月27日～31日と2月1日～5日(同試験・補講期、以下試験期)の、同様に平成11年度においても5月17日～21日と12月13日～17日および7月26日と1月31日～2月4日の各1週間(月～金)を選び、9:00～17:00の間、60分おきに9回、上記と同様に係員(正規情報係員)が巡回し、在館利用者数を記録した。

各巡回時の在館者数は、前報<sup>1)</sup>と同様、これを単純に加算し、当日延べ利用者数とし、またそのうちの最大数を当日利用者最大時数として解析に用いた。解析にあたっては、平成10、11年度とも、これを前期・後期の2期に分け、さらに各期を通常期と試験期に分け、それぞれ結果をまとめた。ただ、実際の試験期間は必ずしも月曜日に始まり金曜日に終わるようにはなっていない。そのため、ここで言う試験期とは試験日を含む週の意味で、10年度においては前期は4月13日から7月31日の間の16週で、このうち第16週(7月27日～31日)が試験期であるが、実際の試験日は7月28日31日の4日間である。後期は9月28日～2月27日の20週で、うち第17、18週(2月1日～12日)が試験期で、この場合は実際の試験期間と重なる。同様に11年度においては、前期は4月12日～8月13日の18週、うち第16、17週(7月26日～8月6日)が試験期であるが、実際の試験日は7月28日～8月3日とこれより短い。なお、第18週は土曜開館は行ったが、開館時間延長は行っていない。また、後期も9月27日から2月26日の21週のうち、第17、18週(1月24日～2月5日)が試験期であるが、試験日は1月28日～2月4日である。

### 調査結果および考察

#### 1. 開館延長日における全日調査からみた図書分館の利用状況について

10、11年度前・後期の通常期、試験期の各1週間(月～金、5日間)における9:00から19:30にわたる在館者数調査の結果をまとめ、表1および図1、2に示した。一日当たりの平均延べ利用者数は、10年度では通常期150名、試験期310名前後、11年度では通常期190名弱、試験期300名前後であり、ともに試験期には利用者が通常期の1.5倍から2倍以上に

表1. 開館時間延長日における各期別一日平均延べ利用者数とその内訳

年度	期	一日平均延べ利用者数総計(名)	所在別内訳			時間別内訳		
			閲覧室(名)	ロビー(名)	閲覧室利用者%	09:00~17:00(名)	17:30~19:30(名)	17時以降利用者%
平成10	前期・通常期	145.2±14.3*	92.8±9.8	52.4±10.9	64.1±5.6	97.8±11.5	47.4±4.0	32.7±2.0
	前期・試験期	312.4±32.3	213.0±39.9	99.4±19.4	67.8±7.7	241.2±19.1	71.2±14.5	22.6±2.7
	後期・通常期	163.0±21.5	99.0±14.7	64.0±15.7	60.9±6.9	117.6±7.9	45.4±18.5	27.1±7.7
平成11	後期・試験期	308.8±39.0	193.4±37.8	115.4±16.6	62.3±6.0	236.6±34.4	72.2±19.0	23.4±5.5
	前期・通常期	189.4±35.3	135.8±28.7	53.6±10.5	71.5±4.3	117.4±23.6	72.0±16.8	38.0±5.7
	前期・試験期	304.6±67.6	226.8±64.7	77.8±15.3	73.7±6.1	216.6±35.1	88.0±37.5	28.0±6.5
	後期・通常期	188.2±29.4	124.0±20.8	64.2±14.3	65.9±4.6	131.0±23.3	57.2±11.3	30.5±5.1
後期・試験期	292.0±78.4	208.6±62.7	83.4±18.2	70.9±4.7	218.4±65.3	73.6±16.8	25.6±3.5	

\* 平均値±標準偏差 (N = 5)

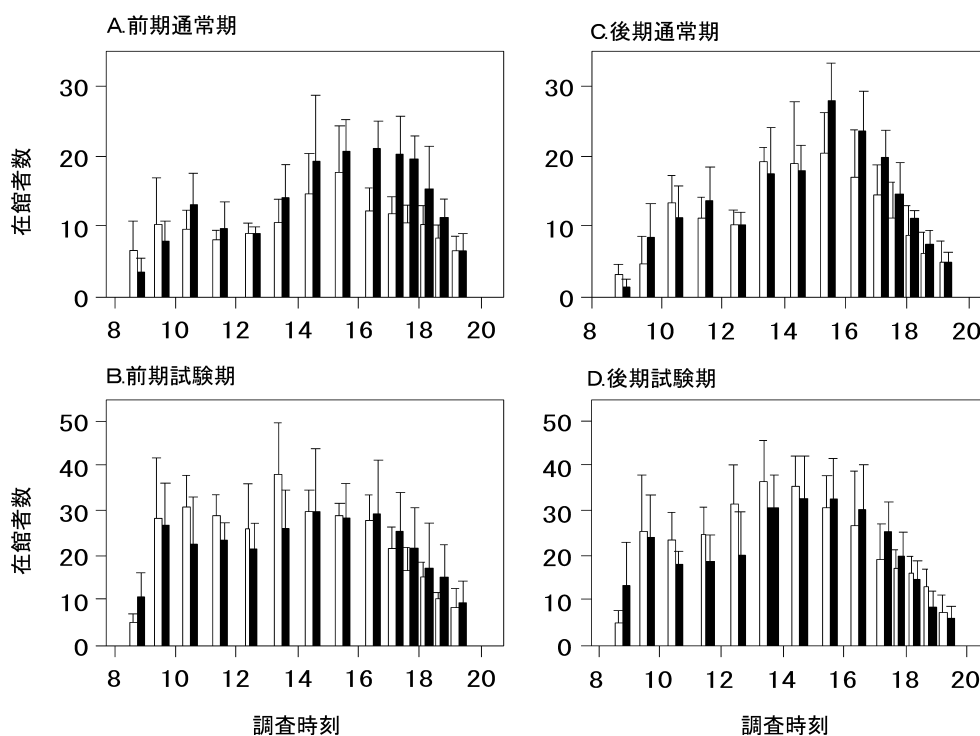


図1. 全日開館日における在館者数の日内推移

コラムは平均値, 垂直バーは標準偏差を示す (N = 5)

□:平成10年度, ■:平成11年度

まで増加する(表1)。調査時ごとの在館者数の合計であるため在館時間が昼間1時間、夜間30分を超え、そのため2回以上の調査にわたってカウントされた利用者があることを考えれば実際の入館利用者の数は当然これらの数字より少ない。しかし、そうした長時間在館者を考慮に入れても、その割合から考え、通常期で1日100~150名、試験期には200名以上の利用者があると思われる。本学部の場合、学部・大学院学生、研究生、教官を合わせると1,000

名を若干超える。この人数と利用者数の割合は、他に参照すべき数字がないためはっきりしたことは言えないが、図書館利用率としてさほど悪いものではないのではなかろうか。現在の決して良好とは言えない環境のもとでも、保有図書の整備・充実、利用便宜増大への努力を続ける限り、この数字はさらに上昇するものと期待される。

利用者の館内での分布状況は、一日を通じてみた場合には60%~70%が閲覧室に、30~40%がロビー

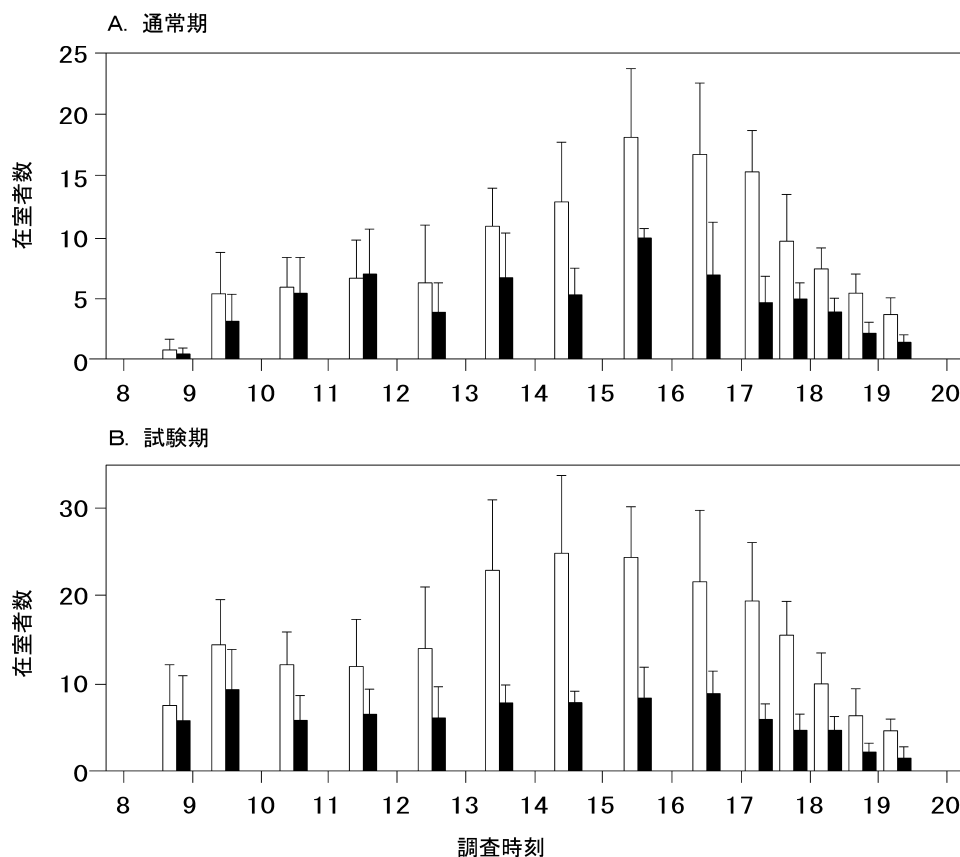


図2. 在館者の読覧室、ロビー分布の日内推移 (例:平成11年度後期)

コラムは平均値, 垂直バーは標準偏差を示す (N=5)

□: 読覧室 (書庫を含む), ■: ロビー (印刷室を含む)

ということになる (表1中欄)。しかし、この割合は次の段でみるように時期によっても、また一日のうちの時刻によっても若干変動する。一時点での最大在室者数は、10年度は読覧室37名、ロビー27名、両者合計では55名、11年度は読覧室36名、ロビー24名、合計では53名である。本分館で現在利用できる席 (椅子) の数は、読覧室が71席、ロビーは中央のテーブル・椅子セットの16席、旧留学生コーナー4席、簡易応接セットおよび小型ソファ計8席分に、新聞コーナー9席分である。したがって、読覧室の方は利用者最大時でもノート、図書等を拡げての学習に必要な1名2席分弱のスペースは何とか充足しているものの、ロビーは、新聞コーナーを除けば、ほぼ完全に満席の計算になる。談話だけならともかく学習が行えるスペースは到底ない。将来の分館増・改築に当たっては、読覧室、書庫、新聞・ビデオコーナー等だけでなく、談話室、自習室的なスペースの確保にも十分な配慮を払う必要があるだろう。

図1は一日のうちの在館者数の推移を、さらに図2は、11年度後期を例として、同推移を読覧室、ロ

ビー別でみたものである。通常期においては、在館者数は午前中少なく、昼休み時にはさらに若干減るが、午後に入るとその数は着実に増加し続け16時ないし17時に最大になる。この時間は学生実験等が終了するか、終了してしばらくの時間であり、学部学生にとっては講義・実験等が終了した後の数時間が最も図書館を利用し易い時間であることを示すと思われる。ピークの後には閉館時刻の20時に向い館者の数は次第に減少するが、それでも平均で5~10名が閉館直前まで在館する。こうしたパターンは読覧室、ロビー利用者のいずれでも共通であるが、ただロビー利用者数の方が遙かに変動幅が少なく、かつ読覧室に比べロビーの場合は午前中の利用がかなり多い。通常期午前中の利用に限れば、図2に示した11年度後期だけでなく、他時期でも読覧室、ロビーの利用者数がほぼ同じか、時には後者が上回ることもさえある。留学生を中心に毎朝、新聞コーナーの利用者が多いことがその一因であろう。試験期の場合も、基本的な日内変動パターンは通常期とほぼ同じである。しかし、全体的な利用者数の増加のほか、

表2. 開館延長時間内利用者数

年 度	期	調査 日数	一日平均 延べ利用者数 総計 (名)	内 訳		閲覧室 利用者%
				閲覧室 (名)	ロビー (名)	
平成10	前期・通常期	70	40.5±12.9*	28.7±11.7	11.8±5.1	70.8±10.3
	前期・試験期	5	71.2±14.5	53.6±10.5	17.6±9.8	76.1±10.3
	後期・通常期	83	40.1±18.1	26.9±18.2	13.2±7.5	66.7±15.3
	後期・試験期	9	61.2±19.5	38.1±13.7	23.1±8.7	62.1± 8.7
平成11	前期・通常期	69	54.7±19.3	37.2±16.3	17.5±5.7	66.8± 9.7
	前期・試験期	10	67.0±39.1	53.8±34.9	13.2±5.8	77.3±10.7
	後期・通常期	84	36.5±15.1	25.6±12.1	10.9±5.2	69.0±12.4
	後期・試験期	10	75.2±18.5	58.4±15.5	16.8±5.8	77.4± 6.4

\* 平均値±標準偏差

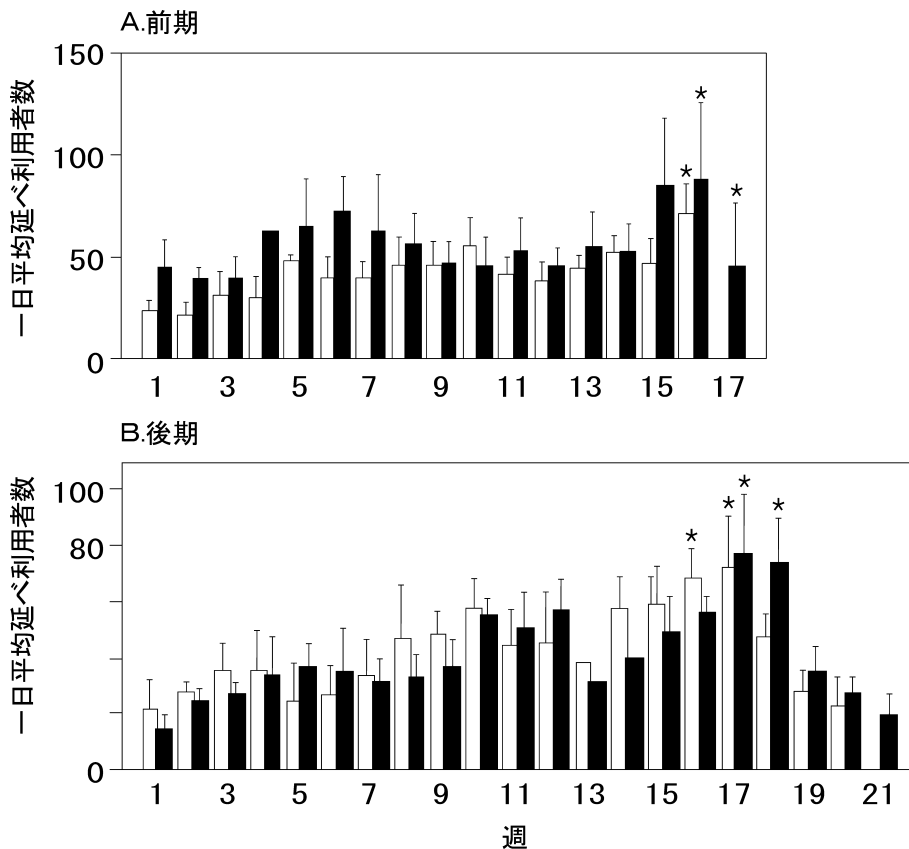


図3. 開館延長時間内利用者数の期間内推移

コラムは平均値, 垂直バーは標準偏差を示す (N = 5)

□:平成10年度, ■:平成11年度

\*:試験期

試験期では開館早々午前中の、それも閲覧室利用の急激な増加が特徴である。また、ピークになるのが14時から15時と通常期に比べ若干早い、これは通常期と試験期の時間割の違いによるものであろう。

表1右欄には各調査日における9:00~17:00までと17:30~19:30までのそれぞれの延べ利用者数と、17時以降の利用者数の一日を通しての全利用者

数に占める割合を示した。通常期と試験期では利用者数そのものには両時間帯とも大きな違いがあるが、比率的にはほとんど差がない。また、データは示していないが、閲覧室とロビーの間でも17時以降の利用者の割合には余り大きな違いは見られなかった。二つの時間帯では調査間隔が異なるため、これらの数字から単純に延長時間帯での利用度を言うことは出

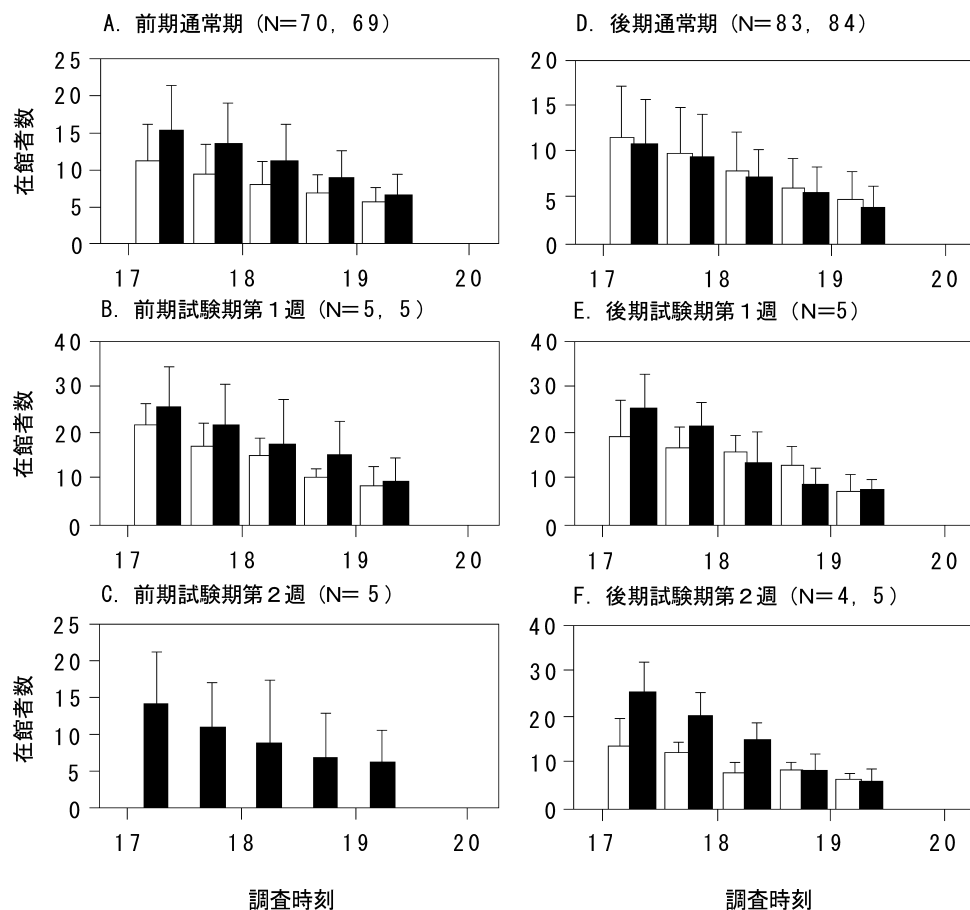


図4. 開館延長時間内における在館者数の推移

コラムは平均値, 垂直バーは標準偏差を示す

□:平成10年度, ■:平成11年度

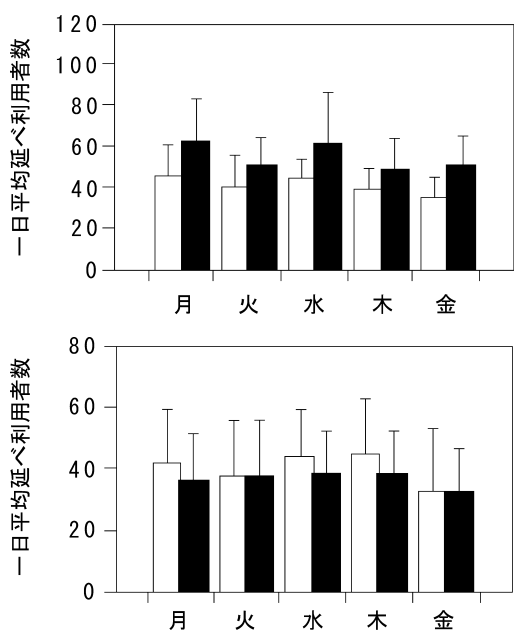


図5. 曜日別開館延長時間内利用者数  
(上段:前期, 下段:後期)

コラムは平均値, 垂直バーは標準偏差を示す (N=12~18)

□:平成10年度, ■:平成11年度

来ぬが, 大まかに言って, 延長した3時間のうちに一日利用者数の1/4前後の利用があると推量される。昼間の開館時間が9時間であるので, 1時間当たり均した利用度は, 通常期, 試験期を通じて昼間, 夜間でほとんど違いがないと言って良い。

## 2. 開館延長時間における利用状況について

結果を表2, 図3~5にまとめた。しかし, その内容については, 前回に報告した平成8, 9年度における利用状況<sup>1)</sup>と基本的に大きな違いがないため, 記載は出来るだけ簡略にとどめる。

表2は各期間を通じての一日当たり平均延べ利用者数である。平成8, 9年度における同様結果に比べると, いずれの時期でも利用者数は今回の方がかなり多い。開館延長施行後丸2年が経過し20時までの開館が当り前のものとして定着した結果ではないかと思われる。一方, 表2の結果を表1の17:30~19:30の時間帯の利用者数および全利用者に対する閲覧室利用者の割合と比べると, いずれもよく似ている。利用者数では全般に表1の方が若干多い

表3. 土曜開館時間内利用者数

年 度	期	調査 日数	一日平均 延べ利用者数 総計 (名)	内 訳		閲覧室 利用率%
				閲覧室 (名)	ロビー (名)	
平成10	前期・通常期	13	31.8±22.4*	24.2±19.9	7.6±4.0	76.0±10.8
	後期・通常期	15	26.1±22.1	18.6±17.4	7.5±5.6	68.3±12.6
	後期・試験期	1	54	40	14	74.1
平成11	前期・通常期	17	42.7±25.1	32.8±20.8	9.9±5.8	75.3± 9.9
	前期・試験期	1	157	124	33	79.0
	後期・通常期	16	24.8±15.6	19.0±13.1	5.8±4.3	73.0±16.0
	後期・試験期	1	89	72	17	80.9

\* 平均値±標準偏差

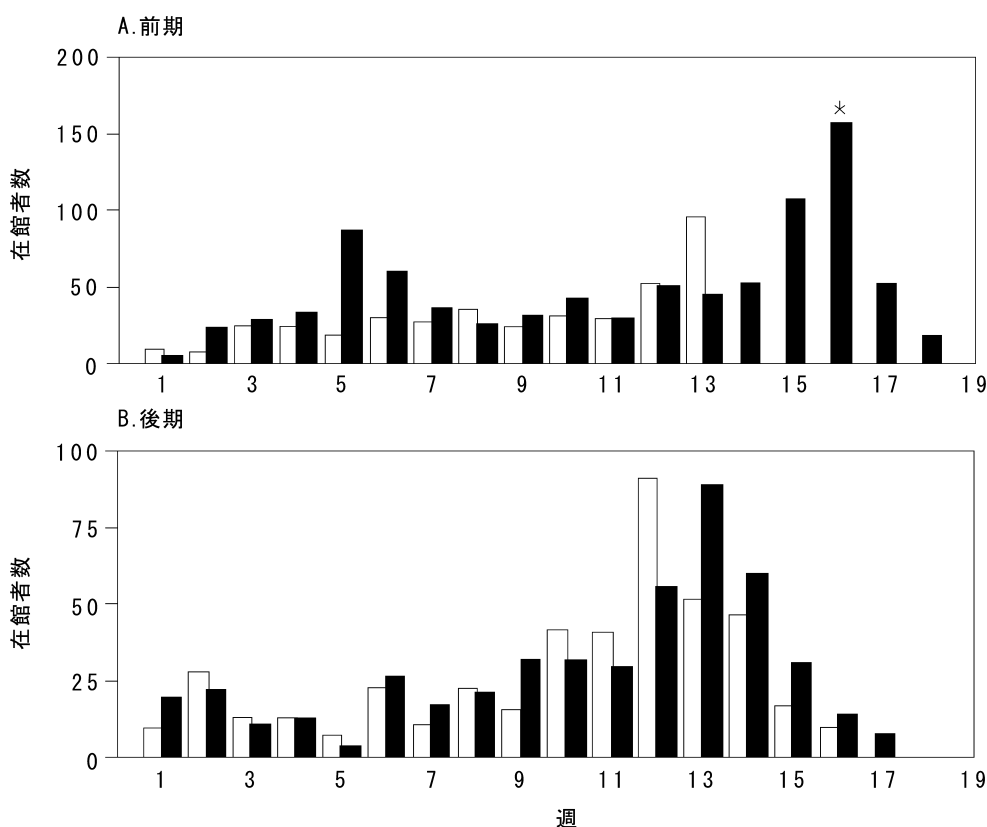


図6. 土曜開館日内利用者数の期間内推移 (各週1日の延べ利用者数)

□：平成10年度，■：平成11年度  
\*：試験期

が、これは、とくに通常期の場合、全日にわたる調査を行った時期が期間の後半で、利用者が増加し出す時期であったことによる。両表の結果がよく似ていることは、表1に示した17時以降の利用者の全体に占める割合も、これをそのまま表2に当てはめてもよいと思われる。前項に述べた1日利用者数の推定値は年間を通じての平均値としても大きな間違いはないであろう。前報でみられた前期に比べ後期の

方が若干利用者が少ないと言う傾向は今回の調査ではみられなかった。

各期ごとの期間内週別 (図3)、開館延長時間内 (図4) および曜日別 (図5) 利用者数の変動パターンにも前報ととくに大きく変わったところは認められない。週別期間内推移では、前報でも同様であったが、前期では通常期から試験期に入ると利用者数が急増するのに対し、後期では試験期に入るかな

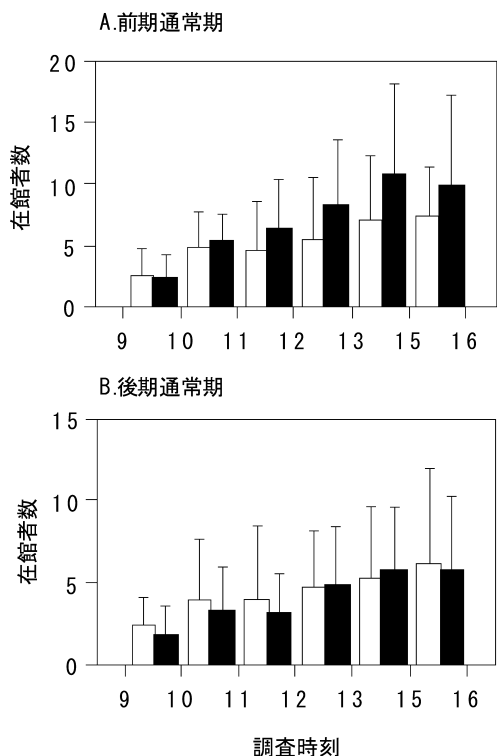


図7. 土曜開館時間内における在館者数の推移  
 コラムは平均値, 垂直バーは標準偏差を示す  
 □:平成10年度, 前期 N=13, 後期 N=15  
 ■:平成11年度, 前期 N=17, 後期 N=16

り前から利用者が次第に増加し、以後そのまま試験期に入るとい、前・後期でのパターンの違いがある。学部2年生の場合には、前期試験の経験から後期は早目からこれに備える必要に気付くなどのことは十分考えられるだろう。週別、時間内推移のいずれにも気候の影響と思われる変動は見られず、それよりは試験を中心とした学年暦の影響の方がはるかに大きい。週の後半、ことに週末金曜日に利用者が減る傾向は今回もみられたが、さほど明確ではなく、曜日による違いはさして大きなものではない。

### 3. 土曜開館について

土曜日10:00~16:00の間の延べ利用者数を表3にまとめた。ただし、試験期の結果は10年度後期、11年度前・後期で各1日しかないので、参考資料程度にしかない。全般に、前期に比べ後期に利用者が減ること、表1, 2に示した結果に比較し標準偏差、すなわち値の変動幅が著しく大きいこと、全利用者に対し閲覧室利用者の割合が高いこと、言いかえればロビー利用者の数が少ないことなどが目立つ。また、利用者数そのものも開館6時間の間の5回の調査時の在館者合計として考えると、週日の

9:00~17:00の間9回の調査の合計(表1)の1/3にも及ばぬのはともかく、17時半以降5回の調査の合計(表1, 2)に比べても遙かに少ない。もっとも、11年度前・後期試験期の1日利用者合計157名・89名、一時点での在館者33名・22名、あるいは試験間近の時期でのこれに近い数字はともかく、通常期の前期でも80名を超える利用者数を記録した日もあり(図6)、一概に利用者が少ないと決めつけることも出来ない。

利用者数の週別推移(図6)は、パターンとしては図3の週日における開館延長時間内利用者数のそれと基本的に同じであるが、1日合計でほんの数名しか利用者がいない日から100名、150名を超える日まで、その幅は大きい。そして、この幅の大きさが表3における大きな標準偏差の主な原因である。一方、日内の在館者数変動のパターン(図7)は週日の9:00~17:00までのそれ(図1)に似、午前から午後にかけて次第に増加、閉館時ないしその少し前にピークに達する。昼食時前後の落ち込みは週日の場合より目立たない。閉館時に在館者数最大と言うのは、利用者からこれを見れば、いまだ開館時間が長ければの思いが強いのではないと思われる。こうした動向からみれば、同じ6時間の開館であれば現行の10:00~16:00を1時間ずらし、11時開館、17時閉館にした方がより利用者の希望に合致するかも知れない。全学の規程では土曜日は10:00~16:00の開館となっており、また、保安、さらに冬季であれば照明、暖房などの問題もあり軽々には行えないかも知れない。しかし、検討には値しよう。

保有書籍・文献の質的、量的整備・充実、館内環境・利用便宜の改善と並んで、開館時間の拡大も、最近の図書館に対する要求の大きな一つとなっている。いつでも好きな時に入れ、好きなだけ居られると言うのは、もちろんそれに見合うだけの保有図書があつての話ではあるが、とくに学習・研究図書館を考えた場合、極めて重要なことである。時代的趨勢、さらに内部からの要求もあつて、本学部図書分館が開館時間延長、土曜開館に踏み切ってからそれぞれ4年、2年経った。検討の段階では、それに要する費用、労力に見合うだけの利用が果たしてあるのか、かなり不安があり、そのため試行も行った上で、ややおっかなびっくりで始めた。しかし、実施結果は前報<sup>1)</sup>、本報告にみる通りである。土曜開館については実施法等になお若干検討の余地はあるものの、時間延長、土曜開館ともに今では完全に定着し、実施前の予想を遙かに超える利用度となって



いる。そして、この間、図書内容の充実、館内設備の改善などについても同様であるが、少なくとも図書館に関しては、こちら側が努力すれば、利用者は必ず着実に反応し、これを無にしないと言うことを実感した。おそらく数年を出ずに本学部でも、日曜・休日開館、あるいは一足飛びに24時間開館までが大きな問題になるに違いない。その際、保安、予算等、種々難しい問題は当然あろうが、このことは忘れないようにしたい。

## 謝 辞

平日夜間および土曜開館時の利用者データ収集に当たっては、平成10年度においては本学大学院農学研究科修士課程学生 後藤つかさ（生物資源科学専

攻動物発生工学研究室、現在海外研修中）、田村充（生物資源科学専攻分析化学研究室 現在三重県庁）の両氏、11年度においては同 田村充（上記）、石川博信（生物生産科学専攻果樹園芸学研究室、現在キッセイ薬品㈱）、星野安信（生物生産科学専攻動物発生遺伝学研究室、現在在学中）の3氏に、情報係事務補として、その実務に当たって頂いた。お名前を記し、その労に深く感謝申し上げたい。

## 引用文献

- 1) 農学部図書・紀要編集委員会，農学情報係：農学部図書分館における開館時間延長とその利用実態，信州大学農学部紀要，**35** (1)：65—72，1998。

## **An Investigation into the Actual Condition of the Use of Faculty Library during 1998 and 1999**

The Branch Library Committee of Faculty of Agriculture  
serving concurrently as the Editorial Board of Journal of the Faculty of Agriculture  
and  
The Branch Library Office of Faculty of Agriculture, Shinshu University

### **Summary**

Following the extension of opening time in week days since 1996, the faculty library also made it opened from 10:00 to 16:00 on Saturday since April of 1998. In order to examine the condition of the use of library during these newly opened times, numbers of persons staying in reading room (and stack room) and lobby (and copying room) of the library were checked from 10:30 to 15:30 at one hour interval on Saturday as well as from 17:30 to 19:30 at 30 min. intervals in week days. The counting of visitor numbers were also carried out from 9:00 to 17:00 at one hour interval in week days in one week of the periods of ordinary lesson and school examination in semesters of 1998 and 1999, respectively.

Total numbers of user of the library in a day were estimated as 100~150 during the ordinary lesson period and over 200 during the examination period on the basis of the result of check over a whole day (09:00~19:30). Of these users 60~70% were in reading room and 30~40% were in lobby at the check time in average throughout the whole day, although the rate of persons in lobby was higher in the morning. In the ordinary lesson period the number of users was relatively small in the morning, increased gradually during hours in the afternoon and, after reaching peak at 16:00~17:00, decreased gradually thereafter. Similar pattern of the change was also observed in the examination period, although the number started to rise already from the morning and reached peak a little earlier, at 15:00~16:00. The number of persons staying in the library during the extended open time (17:30~19:30) was about one fourth of the total number of users throughout the whole day.

The number of users in the evening in 1998 and 1999 was considerably larger than those in 1996 and 1998, but patterns of its change along with the school calendar and with the time in a day and during a week were almost the same between two censuses.

The number of users on Saturday was less than one third of those during day time of week days in average, but the number varied largely during the period examined. In general the number increased according to the progress of school semester and around 100 or more users came to the library on Saturday in the examination period, but there were also some days in which a large number of persons came to the library in spite of the day far before the examination. Users were a few in the morning. Their number increased in the afternoon and reached peak just or a little before the closing time. It may be better to re-consider the more proper opening time on Saturday. The rate of users in the lobby was 20~30% on Saturday, being lower than that in week days.